

地域の「困った!」を「よかった!」に。

イオンモールの社会課題への取り組み

地域の皆さまの笑顔あふれるモールづくり、まちづくりのために、常に地域の課題に対し「イオンモールにできること」を考えています。

自治体と協力して全国に“まち”をアピール

～イオンモール天童の取り組み～



天童が世界に誇るデザイン家具ブランド・天童木工による曲げ木のモニュメント(左端)、将棋の駒を模した外壁の飾り(上)など、天童らしさを前面に押し出したイオンモール天童。

地域の現状と課題

商店街の活性化は市にとっても急務でした。

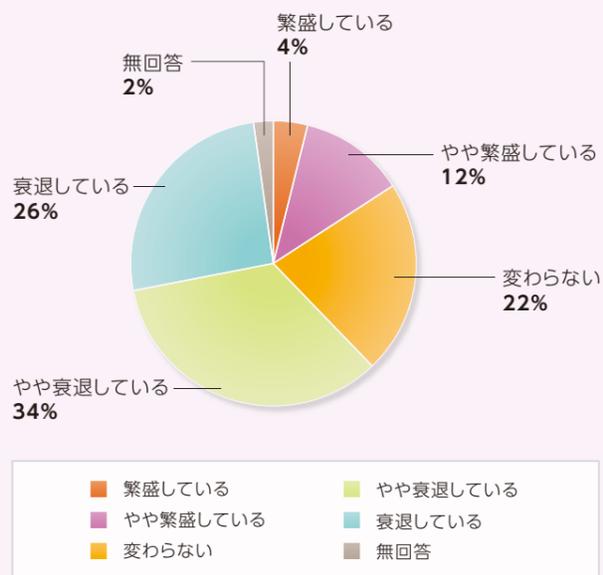
地方の商店街共通の課題として、空き店舗の増加が挙げられます。天童市も例外ではなく、市にある5つの商店街全体でおよそ12%の空き店舗がみられます。そのようなことから、2011年度に有識者や商店主、消費者の皆さんを集めて「天童まちづくり・市街地活性化懇談会」を開催しました。そこでさまざまな意見を頂戴したことを踏まえ、2012年度には「天童中心市街地活性化基本方針」を策定しました。それに基づき、活性化への取り組みを進めている最中です。

そのなかで、生活交流拠点として新たな市街地を形成しようとしている芳賀地区にイオンモール天童が2014年3月にオープンすることになりました。通常、大型ショッピングモールの開店は地元企業にとっては脅威にもなり得ます。しかし、イオンモール天童は年間800万人の来客を見込んでいたとのこと。そのお客さまのうちたった5%でも市内を回っていただき、地元商店を訪れていただければ非常に大きな効果となります。そのため、オープン前より期待を寄せていました。

オープンから2ヵ月、地元の商店から「これまでにないお客さまに来ていただいている」という声を聞きます。今後は、われわれ行政と地元企業が新たなお客さまを取り込むための努力をしなければなりません。イオンモール天童とは、これからもお互いの要望を率直にぶつけ合い、ともに成長していくことができればと考えています。

現在の景況について

天童市商店街および市街地活性化に関するアンケート集計結果 (2012年4月実施)



天童市長
山本 信治さま

イオンモールの取り組み

まち全体を盛り上げたい。その想いに力を貸していただきました。

2013年の春、天童市に赴任してまず驚いたのが、観光資源が豊富にあることでした。まずは市外、そして県外にこのまちのよさを伝えたい。たくさんの方が天童を訪れば、イオンモール天童の活性化にもつながるだろうと考えました。

そこで行ったのが、2014年3月のオープンに先駆け、1月にイオンモール幕張新都心にて開催した「天童フェア」です。市長をはじめ各種団体さまの協力を得て花笠音頭や伝統工芸など、2日間をかけて天童の魅力を発信しました。これが大好評で、イオンモール社内でも大きな反響を呼びました。

また、イオンモール天童では130の専門店のうち、山形県内の企業さまに11店舗出店いただいています。一方で東北初出店11店舗、山形県初出店64店舗と、地元企業の皆さまにも出店いただきつつ、周辺地域の方々に喜んで訪れていただくためのモールづくりもしております。実際、オープン2ヵ月で153万人と、予想を上回るペースでお客さまにご来店いただいています。

このように「イオンモールだけでなく、まちごと盛り上げたい」という思いを市長をはじめ地域の皆さまにご理解いただき、天童市ふるさと大使、さらにはやまがた特命観光・つや姫大使にまで任命いただきました。今後は天童の特色を活かした建物や内装だけでなく、天童市や山形県の情報発信地として真の「観光モール」をめざし、成長を続けていきたいと考えています。

地元企業の専門店出店



イオンモールでは地元企業を積極的に誘致している。イオンモール天童においても老舗の和菓子店など、11店舗が出店。今後新設するアウトモールの店舗にはより多くの地元企業誘致を図る。

観光モールへの取り組み



花笠音頭のディスプレイは「東北六魂祭」にちなんだもの。また、店内に配置されたソファはすべて天童木工製。遠方のお客さまは訪れる楽しみを、地元のお客さまは誇りを感じるこのできるモールづくりを行っている。



イオンモール天童
ゼネラルマネージャー
村上 浩一

地域の特性を活かし、環境に配慮し、生活を豊かにする新しいモールづくり

全国に135のイオンモール(2014年8月末現在)を開発、展開する当社は、これまでの豊富な経験と実績、マーケティングノウハウを基に、その地域の特性やロケーション、商圈に合わせたモールづくりを積極的に進めています。

2015年春にオープンする「イオンモール沖縄ライカム」(沖縄県)は、観光・リゾートがコンセプトです。メイド・イン・ジャパンの文化を発信し、日本・沖縄発の本格的な食のエンターテインメントを提供することでアジアを代表するNo.1リゾートモールをめざします。

2010年3月にオープンした「イオンモール大和郡山」(奈良県)では、伝統の藍染の藍色を各フロアの案内サインに採用するなどして、大和郡山らしさをアピールするモールになっています。また、2010年11月にリニューアルした「イオンモール新居浜」(愛媛県)は、瀬戸内の原風景をモチーフにしたランドスケープを設け、外壁に新居浜太鼓祭りをモチーフに太鼓台のデザインを彩ることで活気ある外観を演出しています。こうした地域性を明確に打ち出すモールづくりを推進する背景には、マーケットの多様化、画一的なモールでは受け入れられないなど、その地域、お客さまのニーズの変化があります。

イオンモール独自の開発を進める一方で、自治体などと協力してつくる、街づくりを視野に入れた、地域社会一体型モールも増えています。こうしたモールには、最近では2014年12月にオープンする「イオンモール岡山」(岡山県)や、2016年春オープン予定の「イオンモール今治新都市」(愛媛県)などがあります。イオンモールの集客機能を活かして、既存の商店街とコラボし、共存を図ることで、地域の活性化に努めています。

イオンモールでは、開発に当たり環境に配慮することは、モールづくりの先駆者として「当たり前のこと」と捉えています。そうした発想を具現化したのが、次世代型エコストア「スマートイオン」です。エネルギーの融通(スマートエネルギー)や防災・地域インフラの構築、生物多様性・景観への配慮など、地域との連携・協力が不可欠な5つの基準すべてを満たし、それぞれの地域のニーズや特性を尊重しながら、持続可能な店舗づくりを中心としたコミュニティ・まちづくりを実現します。2013年5月オープンの「イオンモール大阪ドームシティ」(大阪府)が「防災対応型スマートイオン」の国内1号店となり、2013年3月にリニューアルオープンした「イオンモール八幡東」(福岡県)、2013年12月オープンの「イオンモール幕張新都心」(千葉県)など、今後もスマートイオンを導入したモールを積極的に増やしていく予定です。また、2013年11月オープンの「イオンモール東員」(三重県)では、雨水を循環利用する「雨の庭」といった新しい試みにも取り組んでいます。

開発本部はモールのコンセプトやデザイン、それに見合った土地や物件を探し、調査し、開発に向けてその地域の人々とコミュニケーションを重ねて、まちづくりを推進しています。環境課題だけでなく、地域の特徴や課題をつかみ、そこに住む皆さまのニーズに合わせたモールの開発には、お客さまと身近に接し、地域の声にきちんと耳を傾けるということが大切です。今後も環境に配慮したモールを開発することで、その地域の方々を中心に、お客さまの生活が豊かになるように取り組んでいきたいと思っています。

イオンモール株式会社 専務取締役 開発本部長 岩本 馨



「イオンモール沖縄ライカム」(沖縄県)のコンセプトは「OKINAWA リゾートモール」。沖縄独特の文化や豊かな自然を感じることができ、沖縄に住む人、国内外から訪れる観光客が同じ空間で同じ「トキ」を過ごせるアジアを代表する癒しと楽しみに溢れたリゾートモールとなることをめざしています。沖縄「うちなー」スタイル＝琉球文化×アメリカ文化発信、そして日本発「ジャパン」スタイル＝メイドインジャパン×グローバルジャパン発信の中心となるためのさまざまな施設を設けています。



中国四国地方のクロスポイントである岡山市の中心地、岡山駅前に「ひと」、「文化」、「情報」が集まり、交わり、創造、発信される「未来のまち」をつくっていくことを目的としたのが「イオンモール岡山」(岡山県)です。「おかやま未来スタイル創造特区」をコンセプトに、大都市の時差を縮め、岡山のきらめく未来を予感させる「都市体験」と岡山の歴史を受け継ぎ、新たに紡いでいく「新岡山スタイル」、つまり今までの岡山になかった多彩なスタイルやチャンスに出逢える、新しいライフスタイル、新しい文化が生まれる場所の創造をめざしています。



地域とともに「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭

イオングループでは、地域のお客さまとともに取り組む環境保全・社会貢献活動の一環として、施設の敷地内に、その地域に自生する「ふるさとの木」の苗木を、地域の皆さまとともに植えて大切に育てていく「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭を開催しています。

イオンモールでも、国内外の各モールで植樹祭を開催し、地域の方々や植樹を行っています。樹種の選定は、横浜国立大学宮脇昭名誉教授のご指導の下、地域の原生林を調査し、生態系に適った樹種を選定しています。

なお、イオン環境財団と「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭の累計植樹本数は、昨年、1,000万本に到達しました。

イオンモール和歌山

植樹本数 **15,000本**

イオンモール和歌山では、2014年3月2日(日)に、地域にお住まいの約1,800名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、「スダジイ」「タブノキ」「ヤマモモ」などの地域の樹木を中心とした苗木約15,000本の植樹を行いました。



イオンモール東員

植樹本数 **15,000本**

イオンモール東員では、2013年10月20日(日)に、地域にお住まいの約1,500名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、シラカシやヤマザクラなどの地域の樹木を中心とした苗木を約40種類、約15,000本の植樹を行いました。



イオンモール名古屋茶屋

植樹本数 **20,000本**

イオンモール名古屋茶屋では、2014年6月8日(日)に、地域にお住まいの約3,000名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、「シラカシ」「スダジイ」「カンツバキ」「クチナシ」などの地域の樹木を中心とした苗木を50種類、約20,000本の植樹を行いました。



イオンモール天童

植樹本数 **15,000本**

イオンモール天童では、2013年11月10日(日)に、地域にお住まいの約1,500名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、「シラカシ」「カンツバキ」「クチナシ」などの地域の樹木を中心とした苗木約15,000本の植樹を行いました。



それぞれの地域で献血活動を下支え ～全国各地のイオンモールでの取り組み～

地域の現状と課題

イオンモールの献血活動が、20～30代の参加者を増やすきっかけに

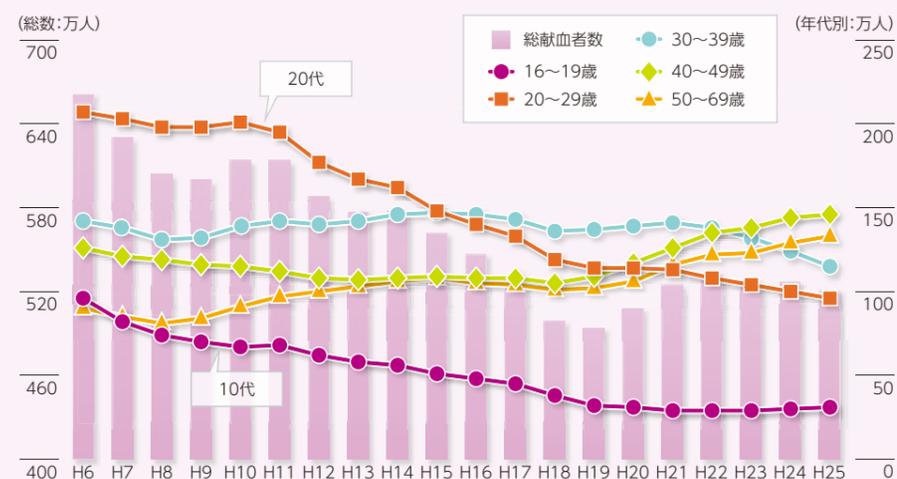
私たち日本赤十字社の調べで、10代のうちに一度でも献血をしていると、その後も継続的に協力するようになるというアンケート結果があります。日本赤十字社では、学校と協力し、小中学生に献血の重要性を呼びかける取り組みをしています。また、大学生や専門学校生によるボランティアが同年代の若者に献血を呼びかける活動も盛んです。病气やけがで血液を必要とする患者さんのため、多くの方にご協力いただき、感謝しております。

イオンモールでも、日本赤十字社が行っている献血活動に、積極的にご協力いただいております。多くの実績を挙げています。

近年、20～30代を中心とする若年層の献血が減少しています。現在は多くの皆さまのご協力により、必要量の安全な血液を確保できていますが、今後の安定供給のためには、20～30代の献血への参加を増やしていく必要があります。

イオンモールは日本赤十字社の活動にご理解をいただき、駐車場などお店の貴重なスペースに、大きな献血車を置かせていただいております。イオンモールには20～30代はもちろん、各年代のお客さまが訪れます。イオンモールが会場となり、献血を呼びかけることは、20～30代の方が献血に参加するよいきっかけになっていると考えています。この年代の方々が献血に参加しにくいのは、仕事で忙しく、平日の仕事の合間だと献血のための時間がとりにくいことが原因のひとつと考えられます。しかし休日に、買い物との合間ならどうでしょうか。「買い物のついでに献血を」と考えるお客さまもいるでしょう。あるいは、「献血のためにイオンモールに行き、ついでに買い物を」という方もいます。双方の集客能力をあわせることで、イオンモールで献血と買い物、という意識が定着し、20～30代の献血への参加者が増えていくよう、願っております。

■年代別献血者数の推移 (資料協力:日本赤十字社)



日本赤十字社
血液事業本部 献血推進課長
瀧川 正弘さま



建物入口近くに設置した献血ブース

イオンモールの取り組み

イオンモールでは、2013年の1年間で、
150,260人のお客さまに献血していただいております。

イオンモールでは、各地域のモールが、日本赤十字社と協力し、積極的に献血活動に取り組んでいます。イオンモール秋田やイオンレイクタウンmori、イオンモール日吉津、イオンモール倉敷など常設の献血ルームやブースのあるモール、駐車場などのスペースに献血車を置いての献血活動、モール内のホールなど空きスペースでの献血活動で、年間で150,260人のお客さまに献血のご協力をいただきました。

各モールでは、モール内のポスターなどでの事前告知をはじめ、ホームページで、献血活動の予定日をお知らせするなどの広報活動を行い、お買い物の合間や、待ち合わせの間にご協力いただけるように呼びかけを行っています。また、献血活動に合わせたイベント開催や献血キャラクターとの広報活動、モールによってはご協力いただいたお客さまへの特典のサービスなども行っています。



子どもの頃から献血への理解を促進。模擬体験を通して、「キッズ献血」



モールのエントランスに設置した献血ブース



献血キャラクター「けんけつちゃん」と広報活動



エレベーターホールに設けた献血ブース



車寄せに献血車を設置



駐車場を献血会場に